

目 次

はじめに	3
第1部 青木誠四郎学長時代の大学・短大生のアンケート調査結果	
I アンケートの趣旨	11
II アンケートの設問内容	17
III アンケート配布数と回答者についての集計	19
IV 全15の設問に対する回答の特性分析	20
第2部 アンケート回答集	
I 大学卒業生（昭和28年卒～35年卒）アンケート回答	67
II 短大卒業生（昭和26年卒～33年卒）アンケート回答	191
第3部 論考『青木誠四郎先生と生活信条～愛情・勤勉・聡明～』	
序：青木誠四郎先生の描く「学園の夢」	503
第1章：『国民学校公民教師用書』から本学園の生活信条へ	506
第2章：戦後の道徳的空白を克服する種々の教育的試み	516
第3章：水曜講演の基本的枠組みとなった『道徳性の発達と教育』	526
第4章：水曜講演における生活信条3徳の生成と実相	539
あとがき	555



「青木誠四郎先生」

～ 昭和30年大学卒業アルバム

はじめに

私が東京家政大学で教鞭をとるようになった頃、中庭の旧講堂の正面脇に「愛情・勤勉・聡明」と石彫されたプレートがありました。その後この標語が、昭和 24 年大学創立時の学長 青木誠四郎先生の唱道した生活信条といわれるものであることは知りえたのですが、その真義は誰からも明確な説明を受けた事はありませんでした。

平成に入って、文部科学省の方針として一般教育科目の大綱化がなされ、大学・短大でも教養教育の再編が行われることになりましたが、その過程で、東京家政大学・短大の特性を表すこの生活信条に関心を持ち、調べ始めたところ、先生が逝去される昭和 31 年まで全学生対象に水曜日に講演をしていた記録集『若い女性（ひと）』（青木誠四郎著、青木誠四郎先生若い女性刊行会、昭和 41 年）を見つけ、読み通し、たいへんな衝撃を受けました。「生活信条」の本義や具体例が明晰に語られていただけでなく、民主主義教育の根幹にあたるものが切々と説かれていたからです。本物の教育者を見つけたと直感しました。それからは、先生の主要な著作を解説し、論文や講演において私なりの解釈を発表したりしましたが、先生の人となりますます関心を持ち、学長の助手をされていた吉野（旧姓：古宮）美恵子先生と久保（旧姓：赤松）麗子先生にインタビューし、当時の青木先生のご様子などお聞きしました。

吉野先生のインタビューから 2、3 紹介しますと、青木先生は学生一人ひとりに母の日やクリスマスに自ら描いた絵カードを渡していたこと、附属幼稚園や附属中学・高校のほかには付属小学校の設置を切望していたこと、クリスチャンではなかったけれど「愛情」を第一に日頃から愛情をもって学生に接していたこと、昭和 31 年 12 月に急逝されたとき学生達へのクリスマスカードを書いている最中だったと推測できること等々を懐かしそうに語ってくれました。その際、池田源宏様が著述された小伝『青木誠四郎—戦後教育を築いた発達・教育心理学の先駆者』をいただきましたが、先生の人物像が極めて簡潔明瞭に書かれており、先生の人となりや業績の入門書として最適と考えます。この書をきっかけに、戦後の民主主義教育導入に活躍された文部省時代（昭和 21 年～24 年）の先生の業績をも深く調べることになりました。その成果の一端が本著の第 3 部「論考」です。

久保先生からも学長室での先生のご様子など、鮮明な記憶と共に生き生きとお話いただきました。今回文書にまとめていただいたので、「はじめに」の後段を参照ください。また、東京家政大学同窓会（緑窓会）会長で大学一期生の中里（旧姓：小野）喜子先生には特別に先生の思い出を書いていただきました。本著をまとめるに当たってお 3 人から多大な支援を受けましたこと、深く感謝する次第です。

先生の孫娘の島 敬子様には、ご家族ならではの貴重なお話を特別寄稿していただきました。また、もうお一人の孫娘 大塚和子様には、在任中たいへんお世話になり、楽しい会話など懐かしく思い出します。ありがとうございました。お二人とも本大学卒業生で、島（旧姓：友枝）様は昭和 42 年家政学部服飾美術学科卒、大塚（旧姓：友枝）様は昭和 45 年家政学部児童学科卒です。

ところで、文部省時代に先生は既に、新生日本の目指す民主主義的社会の基本は「愛情」にある、と喝破されていたと私は洞察しております。東京家政大学に移られてからは、大学・短大・高校・中学・幼稚園を含む渡辺学園全体をそのような民主主義社会のモデルケースとして考え、学生・教員・職員が互いに「いたわり」「思いやる」愛情溢れる学園共同体の実現に尽力されたのではないのでしょうか。そういう意味では、生活信条「愛情・勤勉・聡明」は新生日本全体に対する生活信条とも言えるのではないかと考えています。

この「愛情」教育がどのように当時の学生達に捉えられ、体験されていたのかぜひとも知りたく、平成22年2月に、直接先生の薫陶を受けた当時の学生達（大学は昭和28年卒から35年卒、短大は昭和26年卒から33年卒）にアンケート調査を試みました。その結果、1444人のうち309人から回答が届きました。アンケートの趣旨、アンケートの設問内容、各設問に対する回答の分析等は、本著の第1部に掲載されています。

また全回答（事情により掲載できなかった方を除く）は一定の書式にまとめ、第2部に掲載しました。その理由は以下の通りです。

アンケート回答の内容を読めば読むほど、先生の人柄や先生独自の教育観をますます実感できるようになっただけでなく、学生達にとって先生との出逢いがたいへん重要な意義も持っていることを、共感をもって理解できるようになり、回答全体が、青木先生という共通の人格を中心に、300人余の学生の人生が各自各様の個性的仕方で共鳴し、全体が交響曲を奏しているような錯覚さえ覚えました。今回の回答を単純に統計的に解析することがなんと味気ないことか、と思ひ知らされ、回答用紙や別紙・私信などに綴られていた回答者の思いをそのままおもてに出して、学内外の方々に読んでもらおうとの考えから、全回答を第2部において掲載した次第です。

以上、本著の成り立ちと内容についての説明でした。

最後に、上記の池田源宏著の小伝を参考に青木先生の略歴を紹介します。

- 明治 27 年 (1894) 松本市深志に生まれる
- 43 年 (1910) 長野県立長野師範学校入学

- 大正 3 年 (1914) 長野県諏訪郡高島小学校訓導
- 5 年 (1916) 東京帝国大学文学部哲学科入学
- 11 年 (1922) 東京帝国大学文学部哲学科心理学科卒業
東京帝国大学農学部講師囑託
- 12 年 (1923) 東京帝国大学大学院入学
- 15 年 (1926) 東京帝国大学助教授農学部勤務

- 昭和 12 年 (1937) 東京農業教育専門学校教授
- 21 年 (1946) 文部省教科書局初代調査課長
- 22 年 (1947) 文部省学校教育局教材研究課長
- 24 年 (1949) 文部省を辞任。東京家政大学学長
- 31 年 (1956) 心臓喘息のため急逝

祖父の思い出

島 敬子様

私は誠四郎の娘 純子の長女 島敬子です。

私の両親は小学校四年生の時に転勤で栃木県の宇都宮へ引っ越しました。私は学校の関係で、祖父母の家から学校に通っていました。

祖父の書斎は二階にあり、机の前は全面ガラス戸になっていました。祖父は若い頃武蔵野の散策が大好きで、庭には武蔵野の木々を植えていました。庭の真ん中に樺を、泰山木、こぶし、ヒマラヤ杉、白樺等々それらの木々をながめながら、たばこ（ピース）を指にして仕事をしていた姿が思い浮かべられます。

祖父の楽しみの一つは、美味しいものを食べることだったと思います。とても健啖家でした。お休みの日には、祖父母と三人で銀座にある和光というフランス料理のお店に行ったのを思い出します。毎日の献立もクリームコロッケ、グラタン等の西洋料理が多かったと思います。朝食はトースト、卵、キャベツ、紅茶に夏はコーンフレーク、冬はオートミルと決まっていました。今と違ってコーンフレーク、オートミルが普通のお店にありませんでしたので、女中さんと上野のアメ横まで買いに行きました。夏には軽井沢から小諸、上田に鮎や鰻を食べに行きました。

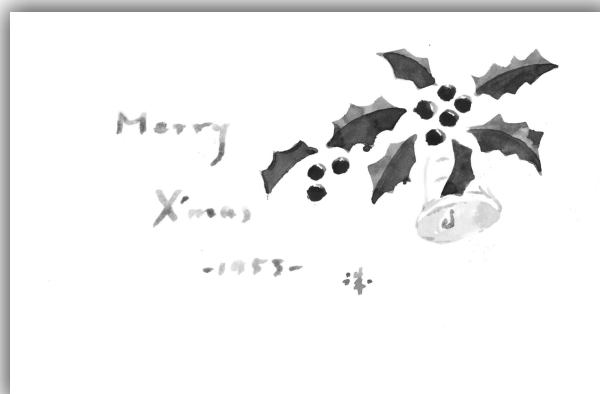
又祖父は戦後GHQの方達と今の教育の基礎となっている六三三制、学習指導要領を作る仕事をしておりました。GHQのグリフィスさん、ハークネスさんとは個人的にも親しくして通訳の方達を連れてよく遊びにみえました。当時としては外国人は珍しく、私は、背が高く素敵、と羨望の眼差しで見えておりました。

祖父が亡くなったのは私が小学校六年生の十二月九日でした。前の日の八日には、祖母が女中さんとデパートに買物に行き、祖父と私は留守番でした。祖父は朝から書斎で、クリスマスの前でしたので、学生さん一人一人に差し上げるカードを書いておりました。柘に赤い実がなっている絵柄でした。おやつにお茶を入れて持っていくととても喜んで、今度銀座に行ってクリスマスプレゼントに洋服を買ってあげようのご機嫌でした。次の日は朝起きて、どうも具合が悪いとお医者様に往診をお願いしました。いつもはお医者様が見えて注射をすると発作が治まるのですが、その日は駄目でした。

母、伯母によると厳格で気難しい祖父でしたが、こうして思い出してみますと、私にはとても優しいおじいちゃまとしか思い出されません。

昭和 42 年大学家政学部服飾美術学科卒

島 敬子



～ 青木先生手描きの
クリスマスカード

昭和 28 年短大卒
(被服 B) K. I 様提供

青木先生の思い出

1 久保麗子先生

『思い出のなかの青木誠四郎学長』

「学長室で青木誠四郎先生はどの様に過ごされていらっしゃいましたか？」

関根先生のお問い掛けに、卒業して六十年過ぎた今、戸惑いました。まず頭の中に残ることは、とても質素な学長室でしたが先生のお姿は、学生をはじめ周りの人達に、喜びと希望をもたらす大きなお方でいらっしゃいました。そのコンクリートの質素な建物の入口の周りは、季節の花が植えられています。

扉を開けると、すぐ一部屋あり、そこには学監 三木テイ先生、土屋兵吾先生とそして私、また部屋の一部に広いテーブルと椅子があり、外部よりお越しの大学の講師の先生の控室に使われていました。床はコンクリートの上に板張り、部屋に上がるのはスリッパに履替えでした。続きの「ドア」を開けるとそこが学長室で、ソファが一脚、冬はダルマ石炭ストーブ、本棚、執務室、とても質素そのものですが、学長先生のスリッパはルームシューズで、お茶の水にあった、黒澤スリッパ店の特注品です。もちろんフェルトで作られていました。黒澤スリッパ店は、その昔、洋館建築の家に住まわれていた上流社会の方々が、足にあったスリッパや部屋履を特注なさっていた当時から有名なお店でした。学長室のカーテンも京橋のお店で布を買い求められ、被服科卒業の私が縫わせていただきました。カーテン屋のお店の名前は忘れましたが、何年か前に探しました。その辺は、様変わりし店はなくなっていました。残念なことに黒澤スリッパ店も、最近閉めました。学長先生のこだわりは本物を求めていらっしゃいました。

唯一今も残っている店は紙の老舗、日本橋「榛原」です。ご趣味で水彩画を画かれる色紙や、学生からの暑中お見舞いの手紙の返事も「榛原」の葉書を使われ軽井沢の別荘近くで咲く野の花を画かれ心をこめて出していらっしゃいました。夏休みは軽井沢の別荘でお過ごしでした。又母の日のカーネーションの葉書や、クリスマスカード等も、「榛原」の品物です。何ごとも、手抜きをなさらない先生でした。「榛原」は現在も日本橋にあります店構えは日本橋開発ですっかり変わり昔の面影はございません。学園を訪れる卒業生は先生のお人柄を慕い、必ず学長室に立ち寄られ、お時間がある時は、学長先生と、お話なさり、その方々は、とても嬉しそうなお顔になって、学長先生に見送られ学園を後になさいました。そこには温かい空気が、満ちていたのを、今でも忘れません。

日頃は学内の講義は勿論、外部への講演にご出張されたり、警察大学校への講義（犯罪心理学）等々とお忙しい日々でいらっしゃいました。

大変お疲れの時は午後から短時間ソファでお休みでした。その時間だけは何方様とも、面会をお断りしていました。昭和 30 年秋の中頃のことです、青森県の講演に行かれた時に、学長先生は喘息の症状が出て困ったお話をなさいました。その後何事もなかった様に学園の行事もお休みにならず職務にはげんでいらっしゃいました。しかし「ご無理をしていらっ

しゃるのではないか」皆でとても心配していました。冬はお部屋の温度に気をつけていますと、いつも有難うたすかるよ、とお声をかけてくださいました。

先生に、この様なお心遣いをいただくことは私ばかりでなく、当時の理事長人見先生と学長先生の共通の専属自動車運転手をしていた手塚さんは、先生からのお心遣いのお声がけに尊敬の念が深まり、「感謝の気持ちをこめて安全運転が出来たのです」と話してくれました。私達の行動はあたり前のことなのです。先生のお心遣いをいただいた方は、学生をはじめ職員の方等数多くいらっしゃったと思います。

私は私ごとの都合で退職することになりました。学長室の勤務は短い期間でした。でもどれだけ多くの素晴らしい経験をさせていただいたことか、感謝の念でいっぱいです。

退職し、帰郷する日のことです、東京駅より独り特急に乗り、ホームを眺めていました「あ！！」、青木学長先生御夫妻が近づいていらっしゃるお姿が見え驚きました。予期せぬ出来事です。そして、私を見送って下さったのです。お別れして9カ月後昭和31年の12月9日、「青木誠四郎学長ご逝去」の報を受けました。

私は「人を人として大切に接すること」の大切さを受け学ばせていただきました。又学長先生の生の教えは「愛情、勤勉、聡明」であれ、深く心に秘め生涯の糧としています。

昭和30年大学生活科学科被服専攻卒

久保麗子



「昭和26年大学入学時の写真」

～ (本人提供)

2 中里喜子先生

『青木誠四郎先生から受けた教えと愛』

関根先生は、現職の時からご自身が哲学の学者でいらっしゃる観点から、青木誠四郎研究に精根を籠められて、学問体系上深く掘り下げ、体系付けて居られました。そして定年退職後は、観点を变えて昭和28年から昭和35年まで東京家政大学家政学部の卒業生（短期大学部は昭和26年から昭和33年までの卒業生）がご生前の青木誠四郎先生から受けた数々の教えや思い出、そして卒業後の生き様などをアンケートとして収集し、そこから分析される手法をとられ、他に類を見ない実践教育の成果を纏めて下さいました。その発想・構想・エネルギーに敬意を表すると共に、卒業生として深い感銘を受けました。

アンケートは貴重な資料で、私の立場で拝見しても、次に記させていただくようなことが浮き彫りにされてくるのです。

其の一 青木誠四郎先生に日頃キャンパスでお目にかかるとうれしい声をかけられました。学生の顔と名前をそして出身県まで頭に入れていらっしゃるって励まされた記録は、殆どの方が記されていることに驚きました。

其の二 青木誠四郎先生は、真の教育者でいらっしゃいます。学生一人一人にかけられたお言葉は、教育心理学者としての深い深いお言葉で、学生にとっては有難く、非常に教育効果が上がっています。

其の三 母の日、クリスマスに青木誠四郎先生の手作りによるカードを学生一人一人に下さったり、キャンプファイアーでは、ご一緒に輪になって踊ったり、学生を200%、300%限りなく無限に愛し教育して下さいました。

其の四 青木誠四郎先生が、或る日にここにこと気さくに、次のようなことをおっしゃっていらっしゃるのを思い出しました。「東京に家を建てるのは、高価で無理なので、軽井沢にまず造った・・・」と、昔語りをして下さるお人柄でした。その軽井沢のお家へ学生を代わる代わる招いて下さったのです。

其の五 また、アンケートからはっきりしたことですが、遠い故郷から上京して来た多くの学生の保証人を引き受けていらっしゃることは、頭が下がりました。

其の六 青木誠四郎先生のご自宅まで学生が伺ったり、コミュニケーションの深さをアンケートで知りましてびっくりしました。

其の七 青木誠四郎先生は、学者として著述、ご講演を東京家政大学の学長の仕事や授業と共に、戦後の時代をリードされる大きな立場で、大切なお仕事をしておっしゃったのに、当時の学生が満足出来るほど、青木誠四郎先生を独占出来た部分の多かつたこと、幸せだったことを改めて感じて、深く深く感謝申し上げます。

其の八 青木誠四郎先生は、著書の執筆と戦後の教育改革の講演で生活され、学園からの給料は辞退されていたと伺っていました。

其の九 アンケートを拝見すると、保護司を長年担当して、「青少年の非行問題」などに
取り組んで社会に尽くしてきた教え子が全国各地で目立ちます。「愛情・勤勉・聡明」を生活信
条として、受けた教育の成果の現われと受け止めました。

其の十 さらに、青木誠四郎先生の奥様のご理解とご協力は並々ならぬものでありまし
たでしょうと拝察して、改めて深く感謝を申し上げる次第でございます。

教え子たちは、きっとそれぞれに思いを新たにして、本書を拝見することでしょう。

青木誠四郎先生は、デューイ（John Dewey 1859～1952 アメリカの哲学者、子どもを太
陽の位置におき、教師・学校・父兄・社会は遊星の位置に置くとする。）の教育理論に近いと
中里は常々考えてきました。小学校を付設して実験校にしたいと希望を描いていらっしやい
ましたからです。その点は未だに実現されませんでした。

関根先生にそのことを申し上げるとうなずいて居られ、共通の語り部になれたことを嬉し
く思いました。

これからも青木誠四郎先生のご遺志を継ぐ方が現れますよう、祈ります。

教育は最終的には、人づくりですね。本書によって改めて気付かされました。本書はバイ
ブルです。

関根靖光東京家政大学名誉教授、誠に有難うございました。

渡辺学園 東京家政大学 緑窓会会長
昭和 28 年大学生活科学科被服専攻卒・1 期生
中 里 喜 子



大学被服科 3 年生が制作したサンタクロースの衣装を着た青木先生
(昭和 26 年 1 月 25 日)

～ 上記写真、昭和 28 年大学卒（生活被服）Y. K 様提供